



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

九月 第③週



中学
国語
一年

学習を始める前に

①必ず用意してください

・ノート

(学習しやすいように、漢字のノートと国語のノートを分けるなど工夫をすること。)

・筆記用具 (赤ペンも用意すること。)

②注意

・大事だと思うところはノートに書いてください。

・このビデオで使っているスライドを印刷したい人は、最後の**お知らせ**を見てください。

・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示に従ってください。

・必要があるときは、ビデオを止めたり、もう一度ビデオを見たりするなど、それぞれ工夫をください。

小さな漁師町の浜から、小舟で半時間足らずで行き着ける大きな無人島があつて、あんちやと友達は、そこでウニを採るつもりだった。マキはその間じゆう、おとなしく貝がら拾いをしている約束で、連れていってもらえることになった。

ほんとは、神戸のおじさんが送ってくれた大きな緑色の麦わら帽子をかぶりたかつたからで、そいつは、その古びた漁師町の手辺でかぶるには、しゃれすぎたのだ。かんかん照りの小舟の上でなら、大いばりで日よけがわりとかぶっていられたが、そいつをかぶっている自分のことを想像すると、マキはやつぱりまぶしい思いで、頭がよけい熱くなつた。帽子のせいで、急に大人びて見えるマキのことが、あんちやも友達も、ちよつぱりまぶしそつだつた。

浜と目的の島とのちようど中ほど辺りに、いま一つ小さな無人島があつて、そこは、潮が満ちると、岩山の先つちよだけ残して沈んでしまふほどかわいなものだつたが、そのそばを歩き過ぎるとき、マキが声を上げた。

「あつ、カモメ。飛べないでいるみたい。」

降りて調べると言い張つて、舟を着けさせた。駆け寄つて見ると、やはり翼を傷つけたらしいカモメが、首を立て、くちばしを突き出して向つてきた。

「わたしここに残る。」

言い出したらきかない口調のマキに、

「じきに潮来るで、いかん。」

あんちやはや止めたが、マキは動かなかつた。

「勝手にすつとええわ。」おしまいに、渋い顔であんちやはふくれ、マキを残して、舟を出した。舟はすぐに小さくなり、大きな無人島の島かげを曲がつて、消えた。

しよつぱい風の中で、マキは長いことカモメと向かい合つていたが、カモメは無事な片方の翼で砂を飛ばしてマキを近づけなかつた。何かにおびえたような激しさなので、おまえの傷のことを心配して残つてやつたのにと、マキも舌打ちしたい気持ちになりかけたが、そこでやつと、カモメは麦わら帽子におびえているのだと気づいた。見知らぬ大きな島にでも見えて、怖かつたにちがいない。

帽子を脱ぐと、日の熱さが頭を燃やした。それでも、カモメがおとなしくなつたのに気をよくして、マキは髪のはてりを忘れていつた。

〈新出漢字〉

帽子 ぼうし

浜 はま

小舟 こぶね

沈む しずむ

翼 はば

沈む しずむ

ウニの数が多いのに夢中になって、あんちやたちも、マキのことをうっかり忘れていった。

潮が満ち始める。

小島は海におぼれ始める。

大事な大事な麦わら帽子なのに、マキはそこへカモメを入れていた。おとなしく入ってくれたことがうれしくて、麦わら帽子がぬれてしまっただめになることはかまわなかった。早く連れて帰りたいとあせる気持ちを、海の冷たさがくるぶしから冷やしていった。残された岩山のすみっこで、マキは麦わら帽子を抱えこみ、舟を待った。

声を上げてみても、始まらなかった。

ひざからももまで、海がひたした。マキは立ち上がり、くちびるをかんで向こうの角を見つめた。カモメもおとなしく帽子に収まっている。海のおいが強くなる。マキは、島を見つめることにつかれ、ちっとは怖い気持ちにもなつて、カモメを見つめることにした。小さな瞳の中に映る自分の小麦色の顔が、くしやんとゆがんでべそをかいていた。

海がおへそまで上がってくる。

マキは麦わら帽子を差し上げる。じきにつかれて腕がしびれてくる。

麦わら帽子が揺れる。

その揺れに驚いたように、カモメが大きく翼を差し上げ、激しくはばたかせた。それが小さな白い旗に見えて、

「あつ、あそこじゃ。」

あんちやたちが、舟をまつすぐに飛ばしてくることができた。

小舟に引き上げられて、やっとおぼれずにすんだマキは、口をきかず、引き上げたあんちやたちも口がきけず、カモメのはばたきの音だけが、妙に大きく聞こえた。

マキの言いたい言葉は、ぐっしよりぬれた麦わら帽子を抱きしめる、か細い腕が語っていた。

〈新出漢字〉

脱ぐ

揺れる

妙

麦わら帽子は乾いたけれど、形がくずれ、色も落ちて、おかしなぶかぶかの帽子になってしまった。
けれどもマキは、大いばりでそいつをかぶって浜を歩く。そんなマキの頭の上を、犬みたいに付きまとして飛ぶカモメがいて、マキはそれが得意だったのだ。

あんちやたちは、ひと夏じゅう、マキも麦わら帽子もカモメも、まぶしくて見るができなかった。



〈新出漢字〉
かわ
乾く

ア はまと目的の島とのちょうど中ほど辺りに、いま一つ小さな無人島があつて、そこは、潮が満ちると、岩山の先つちよだけ残してしずんでしまうほどかわいいものだったが、そのそばを歩き過ぎるとき、マキが声を上げた。

「あつ、カモメ。飛べないでいるみたい。」

降りて調べると言い張って、舟を着けさせた。駆け寄つて見ると、やはりつばさを傷つけたらしいカモメが、首を立て、くちばしを突き出して向つてきた。

「わたしここに残る。」

言い出したらきかない口調のマキに、

「じきに潮来るで、いかん。」

あんちやは止めたが、マキは動かなかつた。

「勝手にすつとええわ。」おしまいに、しぶい顔であんちやはふくれ、マキを残して、舟を出した。舟はすぐに小さくなり、大きな無人島の島かげを曲がつて、消えた。

しよつぱい風の中で、マキは長いことカモメと向かい合っていたが、カモメは無事な片方の翼で砂を飛ばしてマキを近づけなかつた。何かにおびえたような激しさなので、おまえの傷のことを心配して残つてやったのにと、マキも舌打ちしたい気持ちになりかけたが、そこでやつと、カモメは麦わら帽子におびえているのだと気づいた。見知らぬ大きな島にでも見えて、怖かつたにちがいない。

帽子をぬぐと、日の熱さが頭を燃やした。それでも、カモメがおとなしくなつたのに気をよくして、マキは髪のはてりを忘れていった（文理 国語教科書ワーク 参照）

(1) アーウを漢字で書きなさい。

ア 浜 イ 沈んで ウ 翼 エ 渋い オ 脱ぐ

(2) 「降りて調べると言い張って」のように、マキの自分の主張を押し通す様子を表現したほかの言葉を書き出しましょう。（ヒント…十二字で書けます。）

言い出したら聞かない口調

(3) 「じきに潮来るで、いかん」とあんちやは止めましたが、潮が満ちるとなぜいけないのですか。

この島は、潮が満ちると、岩山のさきだけ残して沈んでしまうから。

(4) 「カモメは無事な片方の翼で砂を飛ばしてマキを近づけなかつた」とありますが、そんなカモメに対して、マキはどんな気持ちになりましたか。

舌打ちしたい気持ち

手紙を書こう

手紙は用件を伝える手段として、古くから利用されてきた。目的や相手に応じて、ふさわしい手紙を書けるようになってきた。電話が普及し、手紙を書く回数が著しく減少したと言われる。電話、インターネットは、生きた声を送れること、簡単に用件を書いて送れる優れた通信手段である。しかも、電話機、コンピュータさえあれば、どこでも、いつでも応答することが出来る。

これに対して手紙は、書きあげるまで時間がかかるが、それだけ、心をこめて自分らしい表現をすることができる。また、受け取った人も、時間を見つけて何度も読み返し、相手の思いを感じ取ることが出来る。心の表現を考えた場合、今も手紙は欠かすことができない。

手紙を書くときは、伝える目的と相手によって表現の仕方を工夫しなくてはならない。親しい人の場合は、言葉を選び、表現を工夫することで心の通う手紙になる。いっぽう、問い合わせなどの事務的な手紙の場合、知らない相手であることがほとんどなので、丁寧な言葉遣いで、用件が的確に伝わるよう工夫する必要がある。

ほんだ さくざえもん しげつぐ とくがわいえやす

本多作兵衛門重次（徳川家康の家臣）が妻にあてた手紙

一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな
馬肥やせ

この手紙は全文である。「お仙」とは息子仙千代のことである。伝えるべき要件が簡潔に述べられ、また、家のこと、家族のことを心配する書き手の愛情が伝わってる手紙である。

〈新出漢字〉

遣う

事務的な要件を伝える

事務的な要件を伝える手紙では、横書きの形式が用いられることが多い。横書きの場合は、最初に日付・あて名・差出人の氏名をはっきり書く。

急ぎの際に用いられるファクスマリ（ファックス）や電子メールも、手紙の一種である。手紙より、さらに内容を簡潔にわかりやすくまとめる必要がある。



手紙の書式（手紙の書き方）

手紙の書き方には、長い歴史の中で定まってきた書式があるので、覚えておくようにしよう。また、改まった手紙の場合は、その書式をもとにして書くときよい。

①前文・・・時候の挨拶をしたり、相手の安否を尋ねたりする。「拝啓」「謹啓きんけい」と書いてから、書き始めることもある。

②主文（本文）・・・手紙の趣旨しゆいと用件を書く。用件が正しく伝わるように、整理して書く。

③末文・・・終わりのあいさつを書く。「拝啓」で始めたら、「敬具」を用いるのが普通である。

④後付け・・・日付・差出人の氏名・あて名を書く。あて名の敬称けいしょうは、「様」を用いるが「先生」などを用いる場合もある。相手が個人でない場合は「御中」と書く。

① 拝啓
梅の花が満開です。森本先生には、お元気で過ごすごしのことと思います。・・・

② このたび城北小学校の同窓会を開きたいと考えています。森本先生にもご出席いただきたく、春休みのご都合をお教えください。・・・

③ ご返事をお待ちしております。お体を大切に。
敬具

④ 三月十日
森本綾子先生
中山真一

〈新出漢字〉

拝啓はいけい

御中おんちゆう

手紙を書いてみよう

先週の宿題「次の中からどの手紙を書くのか考えておきましょう。そして、何を書くのか内容も考えましょう。」をもとに、手紙を書きましょう。

- ①他校の中学生に、自分たちの学校の特徴を紹介する手紙。
- ②見学したい施設（工場、市役所、デパート）にあてて、理由を述べ、都合を問い合わせる手紙。
- ③以前お世話になった先生に、今の中学校生活の様子を伝える手紙。

拝啓

桜の季節になり、だんだん暖かくなってきました。山本製菓のみな様には、お元気でお過ごしのことと思います。

突然のお手紙を差し上げ申しわけありません。わたしは福岡西中学校一年二組の高野明子と申します。

さて、福岡西中学校の一年生は、社会の授業で県の特産品の調査をすることになりました。

貴社は長年、明太子の入ったお菓子を製造されてることを市役所の方から聞きました。十月中に一度工場見学をさせていただきませんかでしょうか。急なお願いではありますが、お時間を作ってくださいいただけるとありがたいです。後日お電話をさせていただきますので、メイクご都合をお聞かせください。

御迷惑をおかけいたしますが、よろしく御検討いただけますようお願いいたします。

敬具

九月二十八日

福岡西中学校一年二組

高野明子

山本製菓 御中

では、書いてみましょう。

①前文・・・時候の挨拶をしたり、相手の 安否を尋ねたりする。「拝啓」と書いてから、書き始めることもある。

拝啓

梅の花が満開です。森本先生には、お元気で過ごすごしのことと思います。

拝啓

桜の季節になり、だんだん暖かくなってきました。山本製菓のみな様には、お元気で過ごすごしのことと思います。

②主文（本文）・・・手紙の趣旨と用件を書く。用件が正しく伝わるように、整理して書く。

このたび城北小学校の同窓会を開きたい考えています。森本先生にもご出席いただきました、春休みのご都合をお教えください。・・・

突然のお手紙を差し上げ申しわけありません。わたしは・・・さて、東京西中学校の一年生は社会科の授業で・・・貴社は長年・・・ご都合をお聞かせください。

③末文・・・終わりのあいさつを書く。「拝啓」で始めたら、「敬具」を用いるのが普通である。

ご返事をお待ちしております。お体を大切に。

敬具

御迷惑をおかけいたしますが、よろしく御検討いただけますようお願いいたします。

敬具

④後付け・・・日付・差出人の氏名・あて名を書く。あて名の敬称は、「様」を用いるが「先生」などを用いる場合もある。相手が個人でない場合は「御中」と書く。

三月十日

森本綾子先生

中山真一

九月二十八日

山本製菓 御中
福岡西中学校・

漢字の学習

- (1) 言葉遣いに気をつけて書く。
- (2) 改まった手紙では「拝啓」を使う。
- (3) 相手が会社の場合は「御中」と書く。
- (4) 電話が普及した。
- (5) 伝えるべき要件が簡潔に述べらる。
- (6) 安否を尋ねる。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書いた新出漢字（すでに習った漢字）の練習。
文章で書けるように、新出漢字以外の漢字も復習のため練習しましょう。

2. 音読 「麦わら帽子」を読みましょう。

3. 手紙を書きましょう。

手紙を書き終わっていない場合は、必ず書き終わってください。
自分が書いた手紙の推敲すいこうをしましょう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、Webページ <http://JPNCClass.com> を
見てください。
 - ❖ このビデオのスライドもWebページからダウンロードや印刷が
できます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語 一年

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月	
		<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、 メモをもとにスピーチ をしよう。</p>	<p>野原はうたう 好きな詩を、登場する 生き物の気持ちになっ て朗読しよう。</p>	<p>話す／聞く 一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習 を進めよう。</p>
<p>文章の推敲と原稿用紙の 使い方 推敲のポイントと原稿 用紙の上での推敲の仕 方を知ろう。原稿用紙 の決まりを確かめよう。</p>	<p>情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのこと について、情報を集め、 文章にまとめよう。</p>	<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成、ス ピーチメモを書こう。</p>	<p>野原はうたう 自分の好きな生き物を 選んで、詩を作ろう。</p>	<p>書く 新聞記事 記事の要約をし、記事 に対する自分の意見^{コメント} や感想を書こう。</p>
<p>光と風からもらった贈り 物 筆者が「高原」のどん なところに、言葉の豊 かさを感じているかを とらえよう。</p>	<p>クジラたちの声 クジラの情報伝達に関 する二つの問いをおさ え、音の役割、海中で の情報伝達に音が最適 である理由をつかもう。</p>	<p>ちよつと立ち止まって 各図の説明を通して、 ものの見方について、 筆者が述べていること をとらえよう。</p>	<p>野原はうたう 作者が生き物の姿にど んな思いを感じている かを、読み取ろう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着 目し、にじを見る前と あとの気持ちの変化を とらえよう。</p>	<p>読む 新聞記事 新聞記事を読もう。</p>
<p>混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同 じであったりする漢字 を知り、間違えて使わ ないように気をつけよ う。</p>	<p>言葉の単位 文節や単語に区切る方 法を知ろう。</p>	<p>漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と 表すものを覚えよう。</p>	<p>話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の ちがいをおさえよう。</p>	<p>言葉</p>

	3月	2月	1月	
				話す／聞く
	<p>言葉を調べよう 言葉についての課題を調べ、資料にまとめる。</p>	<p>心に残る思いで 今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。</p>	<p>江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。</p>	書く
	<p>大仏様は「にっこり」 しています 外国研究者との会話を通して、説明されている日本語の特色を読み取ろう。 胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。</p>	<p>少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。</p>	<p>江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。</p>	読む
<p>〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。</p>	<p>漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、意味や読みを類推できることを知ろう。</p>	<p>指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。</p>	<p>辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べてみよう。</p>	言葉